

製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長）の「第17回医療連携カンファレンス」がこのほど、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、心疾患治療に関わる内容や今年8月稼動予定の「がん診療センター」の役割などについて、同病院の医師が解説。出席した医療関係者は地域連携の面から理解を深めていた。

急病や重症・重篤患者を受け入れる同病院と、西胆振地域の他病院との一層の連携強化や情報交換などを目的にした検討会。医師や看護師、事務職などの医療関係者約70人が出席した。

同病院での循環器疾患診療の現状などを説明した松木病院長（循環器内科）は、

心疾患治療、がん診療センター

連携強化へ情報共有

狭心症や心筋梗塞などの患者に対して、カテーテルを用いて血管の詰まりを改善する内科的な治療「経皮的冠動脈形成術（PCI）」について、昨年は250例（緊急PCIは82例）実施したと報告した。

また、金属状の筒（ステント）から溶出した薬剤を血管壁に当てることで、血管の再閉塞を防ぐ「薬剤溶出性ステント治療」などについても、スライドを用いて紹介。「50歳を超えると、いつ心筋梗塞になるのかわからない。これらの治療で西胆振の地域医療に貢献したい」と話した。

一方、前田征洋副院長・

製鉄室蘭病院カンファレンス

第一診療部長（消化器・血液腫瘍内科）は、建設が進む「がん診療センター」の役割などを説明。「同病院で行われた消化器系がん患者手術件数の41・8%は、他医療機関からの紹介を受けた患者」と話した。

その上で、放射線治療の導入や化学療法の充実など、一貫した治療体制も構築できる「がん診療センター」の稼動は、「増加し続けるがん患者に対し、最高レベルのがん治療を地域で完結させる西胆振地域医療の共有財産」と意義を強調。出席者のがん治療の拠点施設の稼動に期待を寄せていた。

（松岡秀宜）



心疾患治療やがん診療センターの役割などについて情報を共有した製鉄記念室蘭病院の「医療連携カンファレンス」